

共生力

HP: <http://ajciee.or.jp/>

Tel : 055-269-6533 Fax: 055-269-6534

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16

甲府丸の内マンション 302

発行人：黒田文男

第1回日中教育文化交流シンポジウム開催

日中6名の若者が意見発表



コーディネーター・パネラー・財団関係者記念写真

教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活性化させるための、「国際教育交流会議（仮称）」のような、取り組みを行いたいというかねてよりの課題を、今年度は「第1回日中教育文化交流シンポジウム」という形で計画し実施しました。

日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当てて、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施しました。

実施目的は、「日本と中国の青年が、お互いの国の文化・教育等について語り、交流し、相互理解を深める」「シンポジウムでの発表者の発言を通して、日中両国の文化・教育等についての理解を深める」「日中両国の文化・教育に対する理解の深まりを、日中両国の友好の礎を担う人材の育成に生かす」でした。実施日は、2月27日（土）で、日本教育会館会の9階902会議室でおこないました。第1回目の基本的な考え方として、「少人数で、より中身の濃い話し合いを持ちたい」と考え、25名規模の会場で行いました。参加者の主体は、日本と中国の



パネラーによる意見発表の様子

青年（中国からの留学生、日本の学生、日本の若い教職員）で、他は協会顧問・理事・評議員・賛助会員・一般・マスコミ関係者にも呼びかけました。コーディネーターには、日中交流研究所の段躍中氏を、基調発表者として第11回日本語作文コンクール最優秀賞受賞者の山東政法学院の張晨雨さんでした。パネラーには、中国人留学生から、第7回日本語作文コンクール受賞者で英国 Leeds 大学留学生の郭海さん、第10回日本語作文コンクール受賞者の西九州大学留学生の丁亭伊さん、第11回日本語作文コンクール受賞者の西安交通大学の陳星竹さんの3名でした。日本側からは、「中国人の価値観」を翻訳した日中翻訳学院の重松なほさん、早稲田大学日中学生会議の松本晟さんの2人でした。パネラーの選定に当たっては、日中交流研究所のお世話になりました。また、日本の若い教師の参加については、各県教組で呼びかけていただきました。

張晨雨さんからは、作文の内容に触れながら、「人のやり方にはそれぞれ原因がある。それをきちんと知れば、いろいろと考えを理解できる。」という話がありました。日本での感想については、「普通の日本人との出会いで色々な事を学んだ。」「日本人の仕事に対する真剣さを知った。」郭海さんからは、現在英国に留学中と言うことで、日本と中国について、英国にいて思うことが話されました。「日本社会の自由さについて驚いている。」「日本の歴史認識については、英国よりも研究のレベルが高いと感じている。」丁亭伊さんからは、日本のACG（ア



参加者との意見交流の様子

ニメ・コミック・ゲーム)への興味から入ったことが話されました。その中で、日本をもっと知りたい、日本語を習いたいと発展して、日本語作文コンクール応募や留学に至ったと話されました。陳星竹さんは、現在交換留学生として慶応大学へ通い日本語の勉強をしているそうです。大学では「日中友好フリーハグ」の活動をしていて、自分でポスターを作り、観光客の多いところなどへ出掛けてハグの取り組みをしているそうです。その活動を通して、お年寄りだけでなく日本人みんなの優しさや親切さを感じたことを話してくれました。重松なほさんは、翻訳出版した“中国人の価値観”に触れながら話をしてくれました。「なぜ自分が中国、中国語、翻訳と関わるようになったのか。」という中で、“天安門事件”の直前に両親と北京にいたこと(まだ小学生だった)、その後、現在まで何回も中国を訪れていることなどについて発表していただきました。松本 晟さんは、早稲田大学日中学生会議の活動を通して、「日中の関係を学生の視点で考えたい。」と取り組みを進めている話をしてくれました。日中学生会議は30年間の活動の歴史の中で沢山のOG・OBを排出していて、各方面でその力を発揮してきていることも紹介してくれました。

当初20名くらいの参加者で計画しましたが、当日の参加者は30名以上になり、大変充実した時間を過ごすことができました。シンポジウム終了後、中華料理店で交流会を持ちました。その中で、また日中の教育文化交流が大いに盛り上がりました。そして財団の目指す「人と人の交流を通して相互理解を深める」という目的が、さらに深められたように思いました。

日本語作文コンテスト最優秀賞受賞者“張晨雨さん”が、輿石参議院副議長(協会顧問)を表敬訪問!



参議院副議長室の椅子に座って輿石先生との記念写真

2015年度第11回日本語作文コンクール(日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛)には、中国の28省市区の180校から4737編の応募がありました。最優秀賞・日本大使賞(日本一週間招待)は、張晨雨さん(山東政法学院)の「好きやねん、大阪」が受賞しました。張晨雨さんは来日後とても忙しい日程でしたが、そ

うした中2月24日(水)当協会の顧問で参議院副議長の輿石 東参議院議員を表敬訪問しました。副議長室での歓談・国会見学等大感激していました。

～ホームステイ参加者も進学～ “フジ国際語学院卒業式”

3月3日、フジ国際語学院(山中小白代表・財団評議員)の卒業式が行われました。担任による卒業生の呼名、代表者への証書の授与の流れの中で、先生方と学生達とが喜びの交歓に包まれる素晴らしい卒業証書授与式でした。後半の学生たちの主体的な取り組みによるパフォーマンスも、まことに感動的なものでした。代表者のスピーチにも「私たちが、日中友好の架け橋になるんだ」という決意が感じられました。一昨年・昨年、教育交流ホームステイ in 山梨に参加した学生たちもそれぞれ進学しました。ホームステイでの体験を、今後の学生生活の中で生かしていってくれると思います。



卒業証書授与式の様子

第24回理事会・第13回評議員会で 来年度事業計画・予算が決まりました

3月8日(火)に、財団の第24回理事会が、日本教育会館8階808会議室で開かれました。理事・監事・顧問の出席を得て、2016年度事業計画(山梨県泰安市東平県への教育交流計画・ホームステイ事業・シンポジウム開催等)並びに2016年度予算(総額8,910,000円)が慎重審議の後に、可決されました。また、賛助会員の獲得等の財政確立の取り組みについても決定しました。理事会の決定を受けて行われた3月18日(金)表決の第13回評議員会においても、原案通り決定されました。



教育会館会議室での第24回理事会の様子